



熊本市西区春日の熊本地方合同庁舎B棟。九州広域防災拠点として、国の合同現地対策本部の設置候補に選ばれた

たが、決してそうではなくて、福岡と熊本の経済・行政は役割分担が違うので、双方が発展する可能性を秘めています。平井浩一郎副会頭（ヒライ社長）に担当してもらい、福岡経済界との融合について対策を練ってもらっています。蒲島知事や大西市長にも協力をいただいて、官民で一緒になった取り組みもお願いしたいところですよ。

もう一つは、中九州の連携です。熊本、長崎、佐賀、大分の4県の商工会議所で観光分野において連携しようと考えています。今年10月頃には、外国人観光客の誘致について、どうやって九州に誘客して、どのようなコースを提案できるかを話し合う会議を持とうと思っています。今後、こ

の4県で連携を強化していきたいです。

松岡 熊本駅前の再開発についてはいかがですか。

田川 大西市長からお話ががあったように、熊本駅と中心市街地をどう結び付けるかが最大のテーマです。これまでも回遊性が大事だと言われながら、具体的な提案がなかった。それは私たちの怠慢だろうと思います。今、具体的な提案書をつくるために協議を進めているところです。具体案が出来たら行政に提案し、一緒になって両地区を結びつけることを考えていこうと思います。

JR九州は鹿児島や大分と同等かそ

れ以上の施設をつくるという方針のようですが、商工会議所としては全国や外国から多くの人々が訪れてもらえるような施設や機能をぜひ整備してほしいと思っています。0番線の利活用についてはJR九州に要望書を提出しましたが、改めてアイデアを募って、要望書の内容を詰めたと思っています。いずれにしろ、熊本駅が整備されることは、中心市街地の人にとっても絶好のチャンスと捉えるべきです。中心市街地の商店街の人たちと話をし、個店としての魅力、そして、商店街としての魅力を増すようなことを考えようと思っています。

口減少時代に向けてどう対応していくのか、蒲島知事からお願いします。

蒲島 国では「地方創生」と「人口減少」というキーワードで政策が進んでいますが、考えてみると「地方創生」や「人口減少」対策の動きは蒲島県政が7年やってきたことと同じ方向性です。活力を創る、アジアとつながる、安心を実現する、百年の礎を築くことが活力や夢に結び付いて、若者が地方に留まることにつながる。そういう意味では、今までの県政の流れを活かしながら、この2つの課題に取り組むことが大事だと思います。

地方に人が留まるには若者の夢が大切だと思います。そして、仕事があること。幸いにして、先ほど福岡の話が出ましたが、福岡まで新幹線に乗れば30数分で行けます。熊本に住んで、福岡に仕事を持つことが可能です。関東では横浜に住んで東京で仕事をするのがステータスになっていますが、そのように、熊本の「横浜化」を進めることができると思います。福岡が持つ経済力のダム効果とも言えます。同じように、熊本都市圏に仕事場の場が沢山あることで、県南・県北地域にとつてのダム効果が発揮されます。そういう形で地方創生を進めなければいけないと思っています。

熊本駅はJR九州が再開発されます

が、そのようなダム効果を発揮するのに適した、利便性の良い交通結節システムが必要だと思います。通勤などで交流人口が増えれば、自然と駅周辺での消費活動も増えます。中心市街地と消費者を奪い合うのではなく、新たな市場ができると思います。

また、これからの熊本を見据えてみると、多くの夢があります。2019年には世界女子ハンドボール選手権とラグビーワールドカップが開催されますし、その翌年には東京オリンピックが開かれ、キャンプ地として利用されることが見込まれます。それらを受け入れるためには、ある種の投資も必要だと思っています。

さらに、夢を拡大するためには海外に目を向ける必要があります。航空路線では台湾・高雄線が定期便化されますが、香港線など今後さらに国際線が増えていくことが考えられます。そうすれば、阿蘇くまもと空港の国際線ビルの改修も必要だろうと思われます。港についても、八代港はクルーズ船に対応するインフラが必要ですし、熊本港も物流拠点としての役割が大きくなるでしょう。現在は鳥栖市が九州のハブとして倉庫業などが集中していますが、将来的には熊本が九州の物流拠点として関連業者が集積する可能性もあります。そのようなことも踏まえて戦略をつくらなければいけません。

私は、そういう夢を追いながらも借金は減らしたいという方針です。これまでも沢山の夢を追ってきましたが、県の借金残高を1千億円以上減らしています。大幅に減らすと緊縮した財政になってしまいますのでバランスは難しいですが、借金を増やすような投資はいけなと考えています。

松岡 「道州制の州都」という夢もありますね。

蒲島 1期目で「熊本を道州制の州都にする」という目標を掲げました。その目標に向かって、道路整備など拠点性の向上に取り組んでいます。そういう取り組みのなかで、熊本県や県議会、熊本市、経済界などがチーム熊本として一緒に動いていることが素晴らしいと感じています。田川さんもいらっしゃいますが、高雄への直行便についても、商工会議所も最初から参加されているので、路線開設の難しさもご存じだと思います。経済界も一緒に支えなければいけないと思っています。インドネシアとの交流もそうですよね。そのように、自治体、議会、経済界が一緒になってやってきたことが実を結んできましたが、今後はさらに県民全体を巻き込んで取り組んでいかなければいけないと思っています。

人口減少対策に必要な「夢」と「仕事」 蒲島知事

熊本の「横浜化」を

松岡 次は、人口減少時代に向けての

地方創生についてです。熊本都市圏は活力があって、熊本市の中心部は九州では福岡に次いでにぎやかな街だと思

います。その一方で、日本創成会議の増田レポートで消滅の可能性がある指摘された自治体が県内には26もあります。人